

だれもが行ける 投票所にすべき！



飯田 英 榮

問：中部福祉館は耐震診断の結果急ぎよ使用禁止となり投票所として使えなくなっていました。国分北一、二丁目地区は中部福祉館以外に公共施設等はなく、投票所として使える施設はふたば愛子園しかなかったとのことです。しかし、ふたば愛子園は投票区域の一番南端に位置しており、投票に行く方にとって非常に不便な所でした。投票所は、バリアフリー化はもちろん、だれもが行きやすい所にあるべきです。

「投票に行きたくても行けない」という住民の声をどのように受け止められているのでしょうか。

答（市長）：ふたば愛子園を初めて使用した7月の選挙では、急坂問題で多くの方から苦情が寄せられました。そこで11月の選挙では、高齢者や体の不自由な方に対し坂下から投票所まで送迎車両を運行したところでした。

今後は選挙管理委員会で、投票区の分割再編も含め検討していきます。

さがみ縦貫道路計画 周辺地域への配慮を



山口 良 樹

問：さがみ縦貫道路の事業計画は、河原口を分断する線形であることから、地権者を中心に計画の見直しを求める声が上がりました。計画に反対する方の多くは、高速道路を作る事に反対ではなく、地元住民が安全で安心して住み続けられるよう、高速道路を相模川河川側に移動してほしいというもので、高速道路の排気ガスが地域内に滞留しないように、また、地震で倒壊しても直接民家に被害が及ばないよう、十分な緩衝緑地帯の設置をといった、住民の健康と安全を想う一心からの反対運動でした。何十回と重ねた国・県・市との

話し合いの結果、最大限川側に寄せる事ができましたが、これから始まる道路建設に当たっては、地元要望が活かされているかしっかりと検証していきたいと思っています。そこで、さがみ縦貫道路の構造上の安全性と沿線地域の環境対策について伺います。

答（建設部長）：さがみ縦貫道路は、一部の盛土構造を除き、ほとんどが高架構造となっており、構造上の安全性については、平成7年に発生した兵庫県南部地震と同程度の地震に対する耐震性を確保していることを事業者に確認済みです。また、事業者は、環境対

策について県の環境影響評価条例に基づき環境アセスメントを実施し、事前に調査・予測・評価を行い、その結果を公表しています。

また、環境施設帯の設置については、道路構造令による幹線道路の端から幅10メートルの用地が確保されています。

さがみ縦貫道路での調査項目は動植物の生態系、大気汚染・振動・騒音および文化財があり事業者はこれらを遵守すべく関係機関と調整し対策を図っています。



▲工事が着々と進行中

高すぎる国保税 1万円の引き下げを！



重田 保 明

問：市の国民健康保険税の医療分は4年間に2回値上げされました。加入者の負担は限界を超えています。深刻な事態を起している原因は、国が市町村国保への国庫負担率を削減したためですが、財政状況の良い本市としても、独自に加入者世帯あたり1万円の引き下げを行うべきと考えますがいかがでしょうか。

答（市長）：国民健康保険制度は独立採算制であり、国保被保険者の保険税、国等からの負担金、一般会計からの法定繰入金での運営が基本です。

保険税の引下げを目的に一般会計からの繰り入れを安易に行えばその原則が崩れ、制度自体が成り立たなくなる恐れがあることから国保加入全世帯の1万円の引き下げは考えていません。

妊産婦無料健診の 拡充検討状況は？



久米 和 代

問：国によると妊産婦健診は、14回程度行うことが望ましいとされていますが、公費負担によって無料化されている回数は2回です。こうした中、全国で無料健診の回数を増やす自治体が増えており、近隣市では、厚木市が9月より5回

に拡充しています。本市の検討状況を伺います。また、里帰り出産者に対して、償還払い方式による健診費用の支給を実施すべきと考えますがいかがでしょうか。

答（市長）：妊婦健診の公費負担は、国・県の責任で実施すべきものと考え

ますが、市では、少子化対策の一環として助成回数を2回から5回に拡大することを考えています。

また、里帰り出産する方に対しても、償還払いによる助成を前向きに検討していきます。

えびなの森構想 市長の考えは？



森 田 完 一

問：市長は、所信表明の中で、市の人口に合わせ、12万5000本の植樹を行い、4年後の市制40周年に合わせ、えびなの森を創造していきたいとのことですが、どのように実施していく予定なのか伺います。

また、環境基金を創設することですが、みどり基金との関係はどのようになるのか併せて伺います。

答（市長）：海老名市は、都市化が著しく、緑地が減少する傾向にあり、地球温暖化防止の気運を高めていくべく、12万5000本の植樹を提案しました。方法としては、20年度から市民



▲緑ゆたかなまちへ...

鉄道全駅バリアフリー化 その進捗は？



木下 雅 實

問：厚木駅周辺は昭和63年に周辺整備構想が持ち上がったものの、20年近く動きがありません。厚木駅は小田急とJR相模線の乗換駅であり、海老名駅と同様に多くの人が行き来し、賑わいと活力に満ちた駅周辺になつていたはずですが、厚木駅周辺について、現在行われているまちづくり調査

の状況を伺います。

答（市長）：18年度から

また、JR海老名駅は、改札内バリアフリー化に向け20年度から基本設計に着手することです。



▲厚木駅のエレベーター工事

答（まちづくり部次長）：相鉄さがみ野駅・かわ台駅は、改札階とホーム階にエレベーター等が設置され、JR厚木駅、門沢橋駅についてもスロープが設置されています。

また、小田急・相鉄海老名駅は、駅舎改良工事により、バリアフリー化に向けて着実に進捗しています。小田急厚木駅は、平成21年の完成を目指し、エレベーター設置工事が行われています。

また、小田急・相鉄海老名駅は、駅舎改良工事により、バリアフリー化に向けて着実に進捗しています。小田急厚木駅は、平成21年の完成を目指し、エレベーター設置工事が行われています。

すべての障がい児者が 集える拠点づくりを



太田 祐 介

問：市内には、身体・知的・精神の障がいを持つ方が併せて3300人程いますが、障がい者の利便性の向上、地域における自立の促進という観点からも、障がい福祉サービスの基盤づくりを進める拠点づくりは、非常に有効な施策であると考えます。「障がい児者の自立を目指した拠点づくり」について、市長の考えを伺います。

答（保健福祉部次長）：障がい者の総合相談支援業務を拠点機能の一部として実施することを考えています。現在、すべての障がい者を対象とした総合相談窓口を週1回開催しています。この事業を新たに発展・充実させたいと考えています。

答（市長）：障がい者福祉には、相談の多様化、日々の居場所の確保など様々な課題があります。また、障がい者の自立をバック

アップする各種の障がい者団体では、団体運営を行うための場所の確保などの問題もあります。これらの課題を解決するため、身体・知的・精神の三障がい児者を一元化した拠点をつくるのが効果的だと考えています。

また、障がい者の自立をバック